

2024
8月号

福岡地区労連

発行：福岡地区労働組合総連合
〒812-0016
福岡市博多区博多駅南1-9-8
ケイ・アイビル2F
TEL 092-433-3338
FAX 092-433-3535
Mail : fukuciku@gmail.com



(HPはこちら)

原水爆禁止2024世界大会 in 広島

核抑止から転換し、国民みんなが核廃絶をめざそう



高校生平和大使たちの運動が会場を沸かす

原水禁世界大会は、今年で原爆投下から79年となりました。8月4日から8月6日は広島県立総合体育館で、8月8日から8月9日は長崎市民会館体育館で開催されました。また、広島・長崎間を走る反核平和マラソンも40回目の節目を迎え、8月6日から8月8日の日程で駆け抜けました。

すべての軍事行動 の中止を求めるヒ ロシマの心

大会初日は、金子哲夫実行委員長が主催者あいさつで、これまでにかつてないほどの核使用や核の威嚇が危惧される情勢であるこ

とを述べ、この危機を作り出しているのは、ロシアによるウクライナ軍事侵攻やイスラエルのガザ地区に対するジェノサイドともいえる軍事攻撃だと指摘しました。また、「広島のは核の反対だけではなく、命を奪い核兵器使用に

つながるいかなる戦争も許さないということだ。すべての軍事行動に強く抗議。戦闘の中止と停止の協議を求めると訴えました。

「日米合意」は岸田首相の欺瞞・矛盾

金子委員長は日米合意にも触れ、「日本政府は、日米合意において拡大抑止として核抑止力を強化する文書を交わした。岸田首相は核のない世界がライフワークと述べながら、今回の日米合意でその言葉が欺瞞で矛盾していることを明らかにした。」と指摘しました。

一刻も早く核兵器 禁止条約の締結

原爆が投下された8月6日は広島大会の閉会総会が行われ、多くの来賓があいさつやメッセージを届けました。政界・国会議員のあいさつでは、田村智子

氏（日本共産党委員長・参議院議員）と柳瀨万里氏（れいわ新選組共同代表・衆議院議員）が駆けつけました。田村氏は、同日開催の平和記念式典で岸田首相が核兵器禁止条約に一言も触れなかったことを問題とし、一刻も早く締結国になるべきであると訴えました。

柳瀨氏は、憲法前文を引用し、憲法の重要性をのべ、核抑止から転換し、現実の問題として国民みんなが核廃絶をめざすことを呼びかけました。

今大会は、原爆投下から80年の大会につながる重要な大会であることから、高校生平和大使の活動や各地域で行われている核兵器禁止条約の署名活動が広がりをみせていました。広島大会の参加者はオンライン参加を含めて5000人でした。

反核平和マラソン スポーツで平和を つないで

原水禁大会と同時に開催された反核平和マラソンは、8月6日、8時15分の原爆投下時刻に平和記念公園で黙と

うをささげ、長崎に向けてスタートを切りました。マラソンが大好きな労働者有志が集い毎年走っていますが、コロナ禍で開催を中止していたため、今年は3年ぶりの開催となりました。ランナーたちは、反核と平和をアピールしながら8月7日には福岡市内を通過し、8月8日に長崎平和記念公園に全員無事ゴールしました。

(編集委員 内田)

「核抑止」は「核脅迫」「核威嚇」だ

8月5日に広島で開催された原水爆禁止2024世界大会の第8分科会「平和の危機と気候危機」に参加しました。この分科会に多数の180人が参加しました。分科会の特別報告Iで公演された「核抑止論を批判する」で、原水爆禁止世界大会実行委員会運営会共同代表をされている野口さんは、「核抑止とは実際に核を使うことではない」との外務省の言い訳に対して、「核抑止」とは躊躇なく核兵器を使用することを前提の危険極まりない安全保障の考え方で「核脅迫」「核威嚇」だと批判します。1995年当時フランスがフラン

(編集委員 惠藤)



核抑止論を批判する第8分科会

＜労働組合と地球環境問題を考える②＞

世界の平均気温 1.5度を超えた



赤本匡弘さん著作「海の中から地球が見える」の抜粋写真
2021年に4月に撮影した被度が「割れ」も満ちない沖縄
の「石西礁湖」

「7日前学生から石垣島の珊瑚はほとんど

珊瑚が太平洋の真ん中に行ってもない

ありませんと報告がありました」と話をされたのはプロダイバー・環境活動家の武本匡弘さん。武本さんは8月5日、広島で開催された原水爆禁止2024世界大会の分科会「平和の危機と気候危機」の特

別報告Ⅱで、「海からみた地球」と題して、地球環境の危機的な状況について講演されました。武本さんは自前のヨットで日本近海だけでなく太平洋の島々にも行かれていて、「珊瑚はどこに行ってもない」「珊瑚と共生しているリーフフィッシュもいない」と海の中の悲惨な実態を報告します。国連環境計画は2021年2月に、地球規模で珊瑚の白化が常態化するの、2034年、日本周辺海域では2024年に常態化するという予測値を発表しています。

地球が暴走するかもしれない
また、武本さんは講演で「世界の気温上昇までは1・1度と言っていたのに1・4度上昇している」と訴えました。1・5度はパリ協定で決めた設定で、根拠は、平均気温が上がったら下げることが不可能で、地球が暴走するかもしれない。2度を超えると人類は生きていけなくなるかもしれない危険の警鐘を発信します。

同じことをしんぶん赤旗日曜版7月21日号に、自然エネルギー市民の会代表の和田武さんが書いていました。和田さんは、今年5月までの一年間で1・63度上昇して1・5度を超えたと、武本さんよりもっと危険な実態を述べています。和田さんも1・5度を超える状態が続くと、温暖化は複数の気候転換点で引き起こす可能性が出てくる、気候の転換点とは、気温上昇を人の力で止められなくなることだと訴えます。

最も暑かった41度の7月
今年の7月29日、栃木県佐野市で41度を観測しました。過去最高は、41・1度です。気象庁は、8月1日、今年の7月の日本国内の平均気温が平年(2020年までの30年平均)よりも2・16度高く、統計を始めた1898年以降で最も高かったと発表しました。地球温暖化を止めるには、多くの人たちとの協力が求められています。(編集委員 惠藤)

今後のスケジュール

- 福岡地区労連 定期大会 10月予定
- これでもいいのか!? 福岡市の防災対策 9月8日(日) 14:00
- 2024街角トークライブ 9月8日(日) 17:00~18:30 警固公園

7月28日に、佐賀県弁護士会館にて『佐賀



加藤裕弁護士の講演でオスプレイの危険性を訴える

をされた加藤裕弁護士より『オスプレイを配

2024年3月21日に仮処分不当決定が下さ

れました。「裁判所は国の回し者だ」と原告の古賀初次さんが訴え、東島弁護士は「審理中の本案訴訟に勝訴目指し闘い抜く」と決意表明しました。続く6月14日第二回口頭弁論に現役海苔漁師の石尾義幸さんが意見陳述をしました。「4人の漁業者の裁判」と過少報道する現状を打破するためにも、市民原告訴訟が決まりました。市民原告訴訟の訴状は、7月29日に佐賀地裁へ提出されました。(編集委員 松尾)

福岡県春闘共闘は、春闘交流集会を行い、第一部で井上正信弁護士による「大軍拡予算で日本は本当に守れるのか」の講演と第二部で各組合の24春闘の意見交流が行われました。井上弁護士の講演では国が進めている南西諸島シフトの大軍拡が、いかに危険で周辺諸国に脅威を与える狙いであるかが明らかとなりました。

この制度は、JR九州の委託社員の正社員化にともない作られていたが、宮崎、鹿児島、大分に勤務

今年7月29日、栃木県佐野市で41度を観測しました。過去最高は、41・1度です。気象庁は、8月1日、今年の7月の日本国内の平均気温が平年(2020年までの30年平均)よりも2・16度高く、統計を始めた1898年以降で最も高かったと発表しました。地球温暖化を止めるには、多くの人たちとの協力が求められています。(編集委員 惠藤)

福岡地区労連 定期大会 10月予定

佐賀空港に自衛隊駐屯地はいらない

佐賀空港自衛隊駐屯地建設工事差止 市民原告訴訟キックオフ集会
空港自衛隊駐屯地建設工事差止市民原告訴訟キックオフ集会」が行われ、100名近くの方が九州各地から参加されました。集会では、沖繩からオンラインで講演された加藤裕弁護士より『オスプレイを配

備させてはならない」と題して危険なオスプレイの実態が話されました。会場で参加の池上遊弁護士からは、市民原告数が、予定の100人を大きく上回る245人になったことが報告されました。現在、佐賀空港自衛隊駐屯地建設工事差止訴訟は、地権者を原告とした訴訟において、2024年3月21日に仮処分不当決定が下さ

福岡県春闘共闘は、春闘交流集会を行い、第一部で井上正信弁護士による「大軍拡予算で日本は本当に守れるのか」の講演と第二部で各組合の24春闘の意見交流が行われました。井上弁護士の講演では国が進めている南西諸島シフトの大軍拡が、いかに危険で周辺諸国に脅威を与える狙いであるかが明らかとなりました。

この制度は、JR九州の委託社員の正社員化にともない作られていたが、宮崎、鹿児島、大分に勤務

今年7月29日、栃木県佐野市で41度を観測しました。過去最高は、41・1度です。気象庁は、8月1日、今年の7月の日本国内の平均気温が平年(2020年までの30年平均)よりも2・16度高く、統計を始めた1898年以降で最も高かったと発表しました。地球温暖化を止めるには、多くの人たちとの協力が求められています。(編集委員 惠藤)

福岡地区労連 定期大会 10月予定

大手企業で地域限定社員制度の拡大



労働者の平和と権利のために団結ガンバロー

意見交流では、各組合の春闘の闘いが報告され、国労からはJR九州で「就業エリア限定正社員」と称する地域限定正社員制度を進めていることが話されました。

今年7月29日、栃木県佐野市で41度を観測しました。過去最高は、41・1度です。気象庁は、8月1日、今年の7月の日本国内の平均気温が平年(2020年までの30年平均)よりも2・16度高く、統計を始めた1898年以降で最も高かったと発表しました。地球温暖化を止めるには、多くの人たちとの協力が求められています。(編集委員 惠藤)

福岡地区労連 定期大会 10月予定

地域が限定されていることは、採算性がよくない事業所を閉鎖し、整理解雇が容易にできる可能性が高まるため、合理化しやすい制度ではないかと危惧される意見もあります。大企業が利益優先で人を使い捨てにするようなことは認められません。そのためには、労働者が路頭に迷うことが無いよう、組合の交渉能力と職場の組織化が一層重要となってきます。(編集委員 内田)